（第１号様式）

令和２年５月８日

神奈川県教育委員会教育長　殿

学校教育計画（令和２年度～令和５年度）

学校名	鶴見総合高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・総合学科

１　学校のミッション

全日制総合学科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、単位制の利点を生かした年次進行を基調としたカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。多文化共生や総合学科の教育システムをいかした教育に取り組んできたが、今後はさらに様々な環境・学習歴・国籍等を持つ生徒が互いに理解し学びあうための工夫を行い、基礎的・基本的な知識・技術の習得とそれらを活用する能力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めるなどこれからの時代に必要な資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組む。

２　学校教育目標

○これからの時代を生き抜く基礎的・基本的な学力と活用する能力を習得させる。
○総合学科の教育システムを基盤に、生徒の主体的な学びをいかせる多様な教科・科目などを設け、学ぶことの楽しさや成就感を体験できる新たな教育課程を編成する。
○様々な環境の違いを通して他者との協働の大切さを理解させ、社会の一員として必要な資質・能力を育成する。
○キャリア教育を通して、自己の進路への思考を深めさせ、職業観を育む。
○地域との連携を推進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを目指す。

３　計画策定時点での課題

○中学校レベルの学習の学び直しが入学後の常となっている。
○生徒にとって、卒業条件としての修得単位数の増加が、学びの機会の増加につながっている反面、負担ともなっている。
○基本的生活習慣の確立や規則遵守に向けた指導・支援に際し、教員間での認識の共有やまとまりのある指導体制がより一層必要となっている。
○キャリア教育の推進により、進路未決定者が減少傾向にある。今後も経済活動の動向を注視した進路支援が求められる。
○部活動の加入率が低く、様々な工夫や継続的な働きかけが必要である。
○在県外国人等特別募集の生徒については、年々入学時点での来日日数の減少傾向が顕著であることなどから、より一層のきめ細かな指導が求められている。

４　４年間の目標と主な方策

	視点	４年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	・基礎的・基本的な知識・技術の習得と、総合学科の教育システムを実現するための教育課程の編成を推進するとともに、組織的な授業改善に取り組む。	・新学習指導要領や総合学科の特徴を網羅した教育課程を編成する。 ・理解度を深めるため、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善や、ＩＣＴ利用、外部教育力の活用も推進する。
2	生徒指導・支援	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の涵養、部活動の活性化など、学校生活の充実を図る。 ・関係機関と連携した教育相談体制を推進させる。	・組織的な生徒指導・支援を行うため、頭髪・服装指導、不要物の持込指導、見回り指導などを通し、年次やグループを中心に情報共有を徹底する。 ・部活動の加入率を増加させる工夫した取組を継続する。 ・ＳＳＷやＳＣ、教育相談コーディネーターと連携し、生徒や保護者の教育相談に対応する。
3	進路指導・支援	・キャリアガイダンスの実施内容の更なる充実に向けた検討と、生徒の主体的な進路実現への支援を推し進める。	・年次に応じたキャリア教育の実践を常に検証し、より効果的な内容などを検討する。 ・インターンシップへの参加者を増やす工夫や、進路未決定者の内訳などを分析し、更なる進路指導へつなげる。
4	地域等との協働	・地域との連携を密にし、外部の教育力を活用する。 ・ＰＴＡとの協働による教育活動を、より発展させる。	・外部人材による講演や連携を積極的に行う。 ・地域連携行事をより能動的に行い、その成果を検証する。
5	学校管理 学校運営	・学校運営協議会の活動を、教育活動などとリンクさせる。 ・職員一人ひとりに事故・不祥事防止を常に意識させるとともに、教員としての資質や指導力向上のため、学び合う組織を目指す。 ・働き方改革を取り入れた業務遂行を実践する。	・学校運営協議会で指摘された課題や解決策を、教育活動や学校運営にいかす。 ・研修会や会議、ＯＪＴを積極的に実施して、常に専門性を深める組織とする。 ・業務を行う際は、ワークライフバランスに基づく工夫も加味して遂行する。